

## TOPICS

- 1. セミナー報告(2019.4.25 開催·応用経済学セミナー): 石井利江子· Page1-2
- 2. Discussion Paper No. A-34 On the History of Economic Systems: Werner Sombart and J.R. Hicks Compared:酒井泰弘・・・・・・・Page3-6
- 3. リスク研事務局よりお知らせ・・・・・・・・・・ Page 7-8

セミナー報告:2019.4.25 開催・応用経済学セミナー 西脇雅人 氏(大阪大学経済学研究科 准教授)

経済学科 准教授 石井 利 江子

西脇雅人氏は実証産業組織論の第一人者であり、また私の知る限り、構造推定による実証分析に国内で最初に取り組んだ研究者のうちの一人です。

今回、西脇氏に報告して頂いた研究「A study of cartel behavior under detection possibility (摘発の可能性の下でのカルテル行為の研究)」は、競争当局による摘発のリスクを意識したカルテル行為に関する実証研究です。この研究では、過去最大級の課徴金が課されたセメント市場の価格カルテルのデータを用いて、カルテルが摘発のリスクをどのように認識しているかを推定することに成功しています。

西脇氏はまず同市場の価格が、全体としては独占価格よりはむしろ競争的価格の方に近く、特にカルテル時期の後半でその傾向が強くなっていることに着目しました。西脇氏はこの傾向が、カルテルが摘発のリスクを認識した上で価格を微調整していることを反映しているのではないかと考えました。



そこで西脇氏は、カルテルの価格選択行動を、将来の摘発のリスクや摘発された際の課 徴金も考慮に入れた動学的最適化行動としてモデル化し、同市場の価格や数量等のデータ を用いて、カルテルが摘発確率をどの程度の大きさと認識しているかを推定しました。

さらに、同氏が推定したパラメータと動学モデルを用いてカルテル価格を復元したところ、カルテルの開始とともに価格が上昇し、やがて低下する、という実際の価格の動きに非常によく似たトレンドが再現されました。

私は、構造推定の研究報告を聞くのが大好きです。多くの場合、途中経過が難解ではありますが、誰にでも手に入るようなありふれたデータを使って、その背後に隠れた情報を引き出すことをゴールとする同手法は、まるで手品のような驚きに満ちているからです。今回の西脇氏の研究報告も、まさにそのような驚きに満ちた大変刺激的な研究でした。今回の研究は、3年ほど試行錯誤してこられたとのことで、その最新の結果を聞かせていただくことが出来ました。今年度初回のセミナーで、若手でありながらこの分野のパイオニアとして尊敬を集める西脇氏を報告者としてお招きできたことを、大変うれしく思います。











CRR Discussion Paper No. A-34

# On the History of Economic Systems: Werner Sombart and J.R. Hicks Compared

- 諸々の経済システムの歴史を吟味する:ヴェルナー・ゾンバルトと J.R.ヒックスの比較-

滋賀大学名誉教授 酒井 泰弘

#### 【研究背景】

官立彦根高商の設立以来(1923 年)、滋賀大学は「近江商人の研究」において幾多の優れた研究業績を生み出してきている。著名な学者の一人・江頭恒治氏は名著『近江商人』(1959 年)の中で、次のような問題提起をしておられる。「ゾンバルトとヴェーバーの論争はわが国にも紹介されて、ひところ学界を賑わしたが、なお未解決の問題である。我が国における商業資本を最もよく代表すると見られる近江商人の研究は、当然にこの問題の解明に寄与し得る資格をもつことが疑いない」ところが、日本の学界を見渡すと、悲しいかな、ヴェルナー・ゾンバルト(Werner Sombart)の名前は、殆んど忘却の淵の中に投げ込まれてしまっている。海外の学界においても、ごく最近まで「ゾンバルト」の名前は、いわばタブー扱いをされてきたようだ。ところが、1991 年 6 月、ドイツのハイルブロンにおいて「ゾンバルト国際会議」が開催されて以来、学界の風向きは大きく変化し、かつての巨人ゾンバルトの関心が急速に復活しつつある。このような復活ゾンバルトの業績と近江商人の研究とを現代の視角からドッキングさせたいというのが、本稿の狙いの一つである。

さらに、もう一つ。今から 50 年前の 1969 年、J.R.ヒックス氏は野心的な新著『経済史の理論』を公刊された。ところが、経済理論家としての「旧ヒックス」の声望の高さを反映したためだろうか、悲しきことに、経済史家としての「新ヒックス」の業績はおおむね過小評価される傾向にある。森嶋通夫教授はこの点を慨嘆して、次のように述べておられ

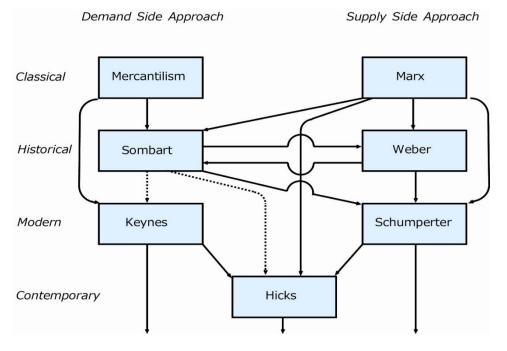


るのが印象的である。「私自身〔森嶋教授〕は、ヒックスの多くの著作の中で、『経済史の理論』と『貨幣の市場理論』が特に好きである。ヒックスは他日、あの経済史の本でノーベル賞をもらっていたらもっと嬉しかっただろう、と言っていたから、『価値と資本』よりも経済史の仕事のほうをヒックスが評価していたことは確かである」だが、残念なことには(当然かもしれないが)、ヒックスの著作を読むと、近江商人への言及がほとんど皆無なのである。そこで、新ヒックスの経済史観の立場から、わが近江商人の意義と役割を再評価してみようというのが、本稿の今一つの執筆目的である。

要するに、経済史観の立場からゾンバルトとヒックスを比較し、そこから新しい知見を 導出しようとする。そして、かかる比較研究の中から、わが近江商人の研究に対して目新 しい分析視角を獲得しようとする。というのが、正直なところ、本稿の研究背景にある主 たる事情なのである。

#### 【内 容】

諸々の経済システム理論を相互比較するために、その「系統図」を描けば以下の図表のようになる。ここでは、比較のための二つのアプローチ――需要重視アプローチと供給重視アプローチ――を縦軸に、そして古典派、歴史派、近代、現代の時代区分を縦軸にして、筆者なりの大胆な系統図を作成している。実線の矢印は強い影響、点線の矢印は弱い影響があることを示している。





左側に並ぶ学派や人々は需要サイドよりも供給サイドを重視し、右側に並ぶ人々はその逆に供給サイドのほうを重視する傾向がある。ここで、「ゾンバルト→ケインズ」という系列は、(独英両国が敵国同士であったためか、それほど明瞭な言及はないが)確かに存在していると筆者は考えている。ヒックスは、需要面にも供給面にも偏ることなく、需給両面をバランスよく配慮した英国紳士である。私見によると、ヒックスの中にはゾンバルトからの影響が密かに見て取れる。

ゾンバルトはかつて「20世紀ドイツの最大の経済学者かつ社会学者の一人」と形容されたものの、今日ではその影が不当に薄くなっているのは残念至極である。そもそも「資本主義」や「資本主義精神」なる用語は、ゾンバルトによって史上最初に使用されたとされる。(ちなみに、マルクスは「資本家階級」や「資本制的生産様式」について雄弁に論じているが、肝心の「資本主義」という用語を使用していないのだ。)ゾンバルトの考える資本主義とは、市場流通経済に近いものである。その歴史は産業革命以前、はるか中世・近世の商業取引をも含む組織だと解釈してよい。ゾンバルトは取引関係者の先進性、合理性、市場の開放性、科学性などのファクターこそが、資本主義の勃興や展開の「決め手」となると考えていた。資本主義なる経済システムは、「初期資本主義」、「高度資本主義」、および「後期資本主義」の三段階から成ると論じているが、詳しくはここでは省略する。

ヒックスは時に変化し、常に進化している真面目な研究者である。研究の出発点を「市場と交換の勃興」におくというヒックスの立場は、ゾンバルトのいう「流通経済組織としての資本主義」の考え方に通じている。ヒックスは「重商主義」や「産業革命」というごときハードな慣用句をわざと避けて、「商人的経済」(mercantile economy)や「工業主義」(industrialism)というようなソフトな言葉の使用を好む。さらに、ヒックスは唯物史観のような歴史的決定論を好まない。経済社会が「生産力対生産関係の矛盾」によって一方向だけに発展するとは考えず、歴史の「趨勢」や「循環」の可能性を十分考慮しつつ、経済的要素と非経済的要素の相互作用関係の解明にも力を入れるのである。ヒックスによれば、経済の歴史は、村落共同体的な(もしくは軍事的性格の強い)「原始的非市場経済」から始まる。そのような保守的な慣習経済を打破するものは「市場の勃興」である。いわゆる「専門化した商人」(specialized merchant)の発生によって、人々の交易が恒常的となり、市場の浸透が社会経済の隅々にまで及んでくるのだ。この、商人的経済は「第一の局面」、「中



間の局面」、さらに「近代の局面」を経て発展するのだが、詳しくは省略したい。

要するに、ゾンバルトの経済史観とヒックスのそれとは、共通する部分が大きいのである。先ず、両者はともに「商人の役割」を最重視する。更に、両者は「歴史と理論の総合化」を目指し、しかも経済的ファクターのみならず、非経済的ファクターの作用を重んじている。分かり易くいえば、ゾンバルトは「理論的な経済史」の建設に邁進し、ヒックスは「経済史の理論化」を意欲的に構築しようとした。

近時、三方よしの「近江商人論」が再び脚光を浴びてきている。グローバル経済危機を迎えて、経済学自体が混迷状態に入っているのだ。私見によると、近江商人は、ゾンバルトが注目した流通資本家であり、ヒックス流の商人的経済の中心的担い手である。我々後進の者は、近江商人の視角から、ゾンバルトやヒックスの所説を吸収統合し、更に一層発展させる必要があるだろうと固く信じている。

上記ディスカッションペーパーは、リスク研究センターホームページ https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/8.html よりご覧頂けます。 冊子体がご希望の方は、risk@biwako.shiga-u.ac.jp までご連絡ください。



### 招聘セミナーのご案内

いずれも事前申込は不要です。直接会場へお越しください。

日 時:令和元年6月21日(金)

12:50~14:20 (3限)

会 場:セミナー室1(士魂商才館3F)

分 野:応用経済学セミナー

表 題: Exploration or Exploitation?

Hedge Funds in Venture Capital

講 師:Emma Li 氏

(Lecturer in Finance, Faculty of Business

and Law, BL Deakin Business School)

言語:英語

招聘担当:近藤豊将 教授

日 時:令和元年7月11日(木)

16:10~17:40 (5限)

会 場:セミナー室1(士魂商才館3F)

分 野:国際経済学セミナー

表 題:表題後報

講 師:藤井 英次 氏

(関西学院大学経済学研究科 教授)

言語: 日本語

招聘担当:得田雅章 教授

日 時:令和元年7月25日(木)

16:10~17:40 (5限)

会 場:セミナー室1(士魂商才館3F)

分 野:会計学セミナー

表 題:表題後報

講 師:國部 克彦 氏

(神戸大学経営学研究科 教授)

言語: 日本語

招聘担当:野田昭宏 教授

日 時:令和元年10月17日(木)

16:10~17:40 (5限)

会 場:セミナー室1(士魂商才館3F)

分 野:リスク研究センター・データサイエン

ス教育研究センター共催セミナー

表 題:表題後報

講 師:高橋 大志 氏

(慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授)

言語: 日本語

招聘担当:菊池健太郎 准教授

これまでの招聘セミナーはこちら

https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/16/index.html



## 数学勉強会報告レポート

リスク研究センターが運営する教員自主企画プロジェクトの1つと して、下記日程にて近藤豊将教授による数学勉強会を開催いたしま した。

第1回目は12名、第2回は5名の参加が有り、本学経済学部、データサイエンス学部の教員、及び学生のみなさん、更に京都大学理学部数学科の学生さんにまで参加をいただき活気あふれる勉強会となりました。

教員のみなさま。

リスク研究センターでは、平成31年度より教員を対象とした研究を通じた教員間の研究会、及び勉強会のお手伝いをさせていただいています。企画案がございましたらリスク研までお気軽にお問い合わせ下さい。

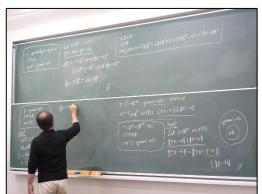
https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/riskjisyukikaku.html











#### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター(以下、リスク研究センター)が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

- 1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
- 2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

- 1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
- 2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

- 1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第59号)に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
- 2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

- 1. 配信メールが回線上の問題 (メールの遅延、消失) 等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
- 2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
- 3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前 に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

( https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html)

発行:滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員:得田雅章、近藤豊将、石井利江子、野田昭宏、菊池健太郎、松下京平、井澤龍、清水昌平

事務補佐員:山﨑真理

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月 - 金 10:00-17:00) 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Webpage: https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/

Facebook: https://www.facebook.com/shigariskcenter/

Twitter: https://twitter.com/shigarisk